

# 長南地区 意見一覧

## 問7：お米以外の作物を生産・出荷している品目

番号	品目
1	少量多品目
2	花
3	しいたけ
4	蓮根
5	ホウレンソウ

## 問9：地域農業を維持していくために、今後必要なこと

番号	意見
1	担い手（含む法人）の育成と営農できる町の農政
2	担い手が生計を維持できる価格の制度設計への取組（営農組合、大規模農家、生産性の低い小規模農家を含む）
3	政府による米の買い上げ。消費者への税金の投入。
4	④の弱年従業員を増やす、きめ細やかな公的支援を期待します。
5	人材
6	草刈り作業が大変で苦労重い
7	国策を中心とした生産物に対しての適正な対価
8	農地を活用したレクリエーション
9	米価UP
10	水稻の収益を高くする。
11	小規模農家への助成金制度
12	町の特産物の創出

## 問10：地域農業の将来に対する期待すること、不安に感じること

番号	意見
1	1000万円/戸以上の収入（機械や肥料は別途）が見込めない農業は今の日本の経済社会において希望が持てない。今持っている農地は固定資産税さえ補えれば何時でも提供いたします。
2	地域農業の心配をする以前の問題として後継者がいないことが致命的である。少子化、都市部への人口の流出をくい止めることが第一である。
3	農業者や生産者が職業選択の対象として将来にわたって正しかったと感じる制度設計が望まれる。
4	現在の農業政策では衰退の一途。根本的な農業方針の確立を。現状の大規模化は、山間地の荒地化を高速で進展させる。
5	野菜が工場で作れるようにお米も最終研究されて工場で作れるようになってしまうのではないか。
6	土地改良していないのでどうにもしょうがない。太陽光発電を考えたらとも思います。
7	現在80歳台の方に田んぼの耕作をお願いしておりますが、後数年で返される可能性があります。返されたら、次の耕作者を見つけるあてもなく、とても不安な気持ちになります。
8	1、人材確保：当地区で10年後を想定すると、水田の技術を培った人は恐らく1人のみ。 2、米ばなれ：米の需要の低下傾向がある。また、食の安保が論じられている。水田に注力するより小麦、大豆、トウモロコシといった輸入頼りの产品的供給力確保に向けた取組を主体にしてはどうか。地元の田畠提供者への米の配布、またJAへの供出料を確保できる面積以外は上記の栽培を考えはどうか。 3：収入の保証、欧州では自給率確保の為、補助金を農家へ出している。
9	ひび割れした水路など、老朽化した農業水利施設の補修整備。地域復活のカギは農業だと考えています。農業の楽しさ、農業の大切さ、農業のやりがい等について行政が先頭にたち様々な施策を講じていくことで、兼業農家にチャレンジする住民が増加することを期待しています。
10	現在農地を個人に貸しています。農業機械もなく、自分のコメ作りはできません。将来的に非常に不安です。
11	イノシシ等の被害で子供たちが安全で遊ぶ場が無くなるのでは？！と心配です！！また生産者に害が出ないか心配がある！！担い手がいないことも心配です！！農業についての勉強会を取り組んでほしい！！一般人にも勉強会を取り組んでほしい！！
12	農地あり 農作物を作りたい人に貸してもいいと思っております。
13	★耕作者がいないので、荒地が増えていく。 ☆耕作者がいれば、無償で貸出す制度を作ってほしい。
14	自家栽培による集約農業（地域性）

番号	意見
15	今のところ特にない。自分の健康が一番不安。
16	長南地区の町内の農地については、区画整理もしていない為限耕作者がリタイヤした時はそのまま耕作放棄になる可能性が高いと言ってひき受ける人もいないと思う。
17	耕作条件の悪い谷津田が多い地域は、大規模農業に向かないため、担い手に貸しづらい。中山間地域の経営モデル（成功例）があれば地域で検討できると思う。
18	担い手が無くなればいずれ保全管理ができなくなり対応に懸念している。
19	高齢化による農地、農地周辺の保全管理に不安を感じる。
20	担い手の誘致（若い人）をしないと、耕作放棄地が増えていく。
21	期待はしますが、難問が多いかな。
22	先行未定
23	都合により、他の町村の方、耕作すると、草刈等の雑作業はしない方が多いようです。
24	農機具が高いため、新しい農機具の購入が困難になるため、現在の機械が壊れたら農業を辞めざるを得ない。したがって、周り近所で助け合いながら、農業を実施していったほうが良いのでは。
25	坂本土地改良事業も完成後38年が経過し、組合員もその老朽化した施設の維持管理にきゅうきゅうとしている。世代交代も進んでこの先の課題になってくるだろう。小生のように営農組合に委託しても、将来、構成員の高齢化で組織が崩壊するかもしれないし、現実として、災害時の田の復旧費は地主持ちであり、何のための委託か解らない。まして個人経営では米価の保証も少なく、将来に希望は持てない。いずれにしても、米単作農業では行き詰ってしまっている。ならどうするか・・・それを考えるのは、行政や立法に携わる指導的立場に居る先生方の仕事だろう。違うか・・・と言っても仕方がないので、小生の所見を申してみる。農地はもう個人経営から切り離し、国もしくは県単位に経営移譲して、土地に合った作物を作る。そして国・県レベルの経営組織にして、その拠点を郡か市町村にすることで近郷の就労の場にもなるだろう。少子化で人手不足なら国際化も時にはやむを得なかろう。いずれにしても、今、農家は資産貧乏の極みだ。もう狭い地域で悩む問題を超越していると想うので、早く国に挙げるべきだと思う。
26	利根里営農組合がいつまでできるのか。
27	農業に対する希望が見えない。
28	必要な機械が高価すぎる。農業だけでは収入が少なくて生活できない。大雨等の災害が発生した際、復旧は個人でやらなければならず、負担が大きい。
29	荒れていく農地が心配。年齢と共に体が動かなくなるため。
30	不安に感じることばかりです。草刈りがいつまでできるのかわからないし、近所の人に迷惑がかかるのではという心配があります。今お願いしている人も歳なので、いつまでできるのか分かりません。農地の草刈りを頼んでいて、金銭的にも厳しいです。

番号	意見
31	町に家も築けず、子供も残ってゆけない。働く場所、収入があれば町もなんとかやっていけるのでは。
32	今後、農業に対する後継者不足、それに伴う放棄田が増加してくると思われる。自宅周囲の放棄田への対策も不安である。
33	地元の利根里ファームもいっぱいのため新たに水田を受けられない。ハスの耕作者も廃業又は面積の縮小のため、次の耕作者が見つからぬいため耕作放棄地が年々増えること。
34	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣害の被害が深刻です（イノシシ、カモ、アライグマなど）。</li> <li>・上記対策への町からの補助金や、駆除対策の徹底。</li> <li>・近年、肥料や農薬はかなり値上がりしているが、作物の値段はかなり下がっている。</li> <li>・天候災害で今までのように戸栽培することが難しい。</li> </ul>
35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農組合や近隣の方に委託したくても、委託先に従事者が少ないため断られる心配がある。</li> <li>・組合の補助金交付だけでなく、個人（小規模）農家も対象にした制度の設立をお願いしたい。</li> </ul>
36	現在は草刈り程度は実施しているが、今後はそれも無理です。太陽光への活用も考えなければならない。
37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年後くらいには農業の縮小等をした場合、借り手がいない場合一気に谷津全体が荒地になる恐れがある。</li> <li>・道路のり面の草刈り面積が非常に多く、年齢を重ねる度に重くのしかかる。</li> </ul>
38	土地改良未整備の農地の保全管理。
39	<p>家族経営を続けて行きたい（子供・孫たちに安心な米を食べさせたい）のですが、今使っている機械も、いつまでもつかわからない。年金生活となり、今後、新車は買えないと思う。それでも体の続く限り自営は続けたいと思っています。</p> <p>私の土地は蓮根地域の中にあり、土地改良されていません。また、隣接の島はソーラーパネルが設置され、今後土地改良もできないと思います。その中の営農の継続は難しく、他の大規模法人に委託することも難しいと思っています。今後、私ができなくなったとき、農地の管理はできないと思います。</p>
40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の農地の有効利用の推進化。</li> <li>・農振地域の見直し（除外等）</li> </ul>
41	鳥獣害対策にもっと力を入れてほしい。
42	後継者がいない。
43	農業をしていれば生活が安定する状況が確立されれば、農業経営に戻ってくる人も大勢いると思うが、これからも引き続き「やればやるほど出費が増えてしまう」ようなことだと、離農者は増え続けるだろうと思うので、状況改善が第一なことは分かっていると思うが、改善方法はわからないまままでいるため、今後も減っていくのではないだろうか。
44	<p>周りの急激な離農に対応するため、人材育成と経営拡大を急ぎ進めているが、その準備が間に合わない。3年は地域が持たないので、最低2年以内に急速な規模拡大が必要な見通し。</p> <p>まず単独で農協の便で東京方面の市場の開拓を進める方向で農協と調整中。将来的に法人化予定。</p>

番号	意見
45	この先農業を続ける予定はありません
46	作物の売り上げ価格の低さによる農業ばなれ（市場、店）
47	現在の農業は（特に長南町は）草刈等の作業やせまい耕地のため、生産性が悪く収入が少ない。補助金の拡充が必須である。
48	食材はみなが必要であり、だから作ろうとする人がたくさんいる。必需品には確実にニーズがあり、今後もほぼ永遠に必要です。農業は景気だけでなく、干ばつ、洪水、気候変動に苦しめられ、苦労することが多い。その時に必要なのは「効率化」であり、少ないコスト、少ない労働力で同じものを作れば、これは確実に社会に役立つと考えますが、今、社会ではこの人々が不足している。食料（必需品）（安全で普通においしい米）を効率的に作れる政策を期待します。
49	・高齢化になり、田畠が荒れているところが多い。 ・近所の他の家の土地の草刈り等をしなければいけない。
50	田畠をどうするは、一番大事なことなのでしょうが、その田、畠を取り巻く、この辺で言う山林、道路、持ち主のいない・わからない空き地、それらをどうかしなければと思われてなりません。
51	今回のアンケートに限らず、担い手不足の懸念される中、土地利用の利便性、促進するよう、権利の移譲を含め土地の公用地化を進めることも必要と思われる。よって混在土地の解消と地域性のある環境整備が必要と思われる。
52	将来に対して不安。維持するには耕作者の生活補償、補助金を出すしかない（サラリーマンのみの生活補償）。
53	組織、法人があっても後継者の高齢化や人材不足。